

平成30年9月12日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜  
1番 坂口正勝  
3番 猪村利恵子  
5番 江口康成  
7番 上田雄一  
9番 吉川里己  
11番 松尾陽輔  
13番 石橋敏伸  
15番 松尾初秋  
18番 牟田勝浩

副議長 川原千秋  
2番 豊村貴司  
4番 山口等  
6番 吉原新司  
8番 古川盛義  
10番 末藤正幸  
12番 池田大生  
14番 宮本栄八  
16番 山口昌宏

2. 欠席議員

20番 江原一雄

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 末藤彰彦  
次 長 江上新治  
議事係 長 吉永和彦  
議事係 員 田中弘一

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
教	育	長	浦	郷		究
総	務	部	水	町	直	久
企	画	部	古	賀	龍	一
営	業	部	神	宮	一	文
営	業	部	松	尾	和	久
福	祉	部	岩	瀬		清
福	祉	部	牟	田	由	紀
こ	ど	も	松	尾		徹
こ	ど	も	山	口	泰	光
ま	ち	づ	庭	木		淳
ま	ち	づ	高	倉	秀	昭
会	計	管	末	藤	勇	二
上	下	水	今	福		剛
総	務	課	川	久	保	和
財	政	課	山	崎	正	和
企	画	政	松	尾	謙	一

---

議 事 日 程 第 4 号

9月12日（水）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

---

平成30年9月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
9	8 古 川 盛 義	1. 河川改修、道路改良について 1) 松浦川改修計画 2) 県道相知～山内線の改良 3) 県道武雄～伊万里線の改良  2. 財政政策について 1) 人口推計による武雄市の将来 2) 基金状況について
10	6 吉 原 新 司	1. 市政について 1) 旧庁舎の今後について 2) 旧支所について 3) 武雄市のイベントについて 4) 駅周辺の活性化について
11	2 豊 村 貴 司	1. 空き家対策について  2. 健診について  3. 防災としての情報発信について  4. ITの活用について

---

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、一般質問を続けます。

それでは、8番古川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。8番古川議員

○8番（古川盛義君）〔登壇〕

おはようございます。ただいまより一般質問を始めさせていただきます。

4年3カ月ぶり、ここに立たせていただいております。足が震えております。皆さんの顔もよう見えんごと緊張しております。

小松市政になって初めての質問でございます。とにかく、市長におかれましては的確に、

執行部におかれましても……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○8番（古川盛義君）（続）

的確に答弁をお願いします。

議長をお願いいたしますが、監査の守秘義務に触れるようなことがありましたら御注意をお願いいたします。

まず、私の地元でございます武内町の一番困っておることがございます。そこを、るる質問してまいります。

それは、松浦川、それから相知山内線、それから武雄伊万里線のことでございまして、事業主体は県でございます。ですが、武内町の区長会を中心に、長年にわたり陳情をしていただきまして、やっと少し目鼻がついたかなというふうな状態でございます。

1番目に御質問いたしますが、松浦川の皿堰の改修につきまして、今後どのような計画になっているのか、まずお尋ねを申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。モニターをお願いします。

（モニター使用）今モニターのほうに映しておりますのが議員御質問の皿堰でございます。写真右手のほうが多々良入り口の3差路でございます。

改修につきましては、管理者であります杵藤土木事務所に確認いたしましたところ、現在、設計業務を行っているということでございまして、設計が終わり次第、地元説明会を開催することでございます。

なお、今後のスケジュールでございますが、地元説明会で御了承いただきましたら、用地測量、それから、用地買収をさせていただき、平成32年度から工事に着手する予定であるとのことでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番古川議員

○8番（古川盛義君）〔登壇〕

松浦川も、今年7月にも氾濫をいたしております。一日も早い改修をできるよう、市の当局からもお願いを申し上げます。

それから、若木町と武内町の境目でございます、——ちょうど境にあるから境橋って言うところでしょうけど、——界橋の件で御質問申し上げます。

北川副市長が現職であられるころ、西真手野区の地縁団体をつくる際に、大変御尽力をいただきました。そのおかげで話が進んだという経緯もございます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

これも西真手野区の区長さん、区の役員さんたちが何代もかけて県にお願いをして実現したものでございます。

界橋の改修も何とか進むという話を聞いておりますが、今後どのような計画で改修が進むのかお尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

庭木まちづくり部長

**○庭木まちづくり部長〔登壇〕**

（モニター使用）今、モニターに映しておりますのが議員御質問の界橋でございます、写真奥のほうは武内方面、手前が若木町方面でございます。

界橋の橋梁工事につきましても、土木事務所に確認したところ、今年度から工事に着手いたしまして、平成32年の完成を目途に進めているということでございます。

今後の工事計画といたしましては、本年度中に迂回路設置工事、それから現在の橋りょうの撤去を行いまして、来年度の31年度は橋梁の下部工の施工、最終年度を予定しております平成32年度に上部工を施工いたしまして、橋梁の完成後、迂回路の撤去等を行うということでございます。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

8番古川議員

**○8番（古川盛義君）〔登壇〕**

そしたら、県道のもう一つ、一番大切な部分でございますが、武雄から赤穂山トンネルを越えまして1キロほど武内側にまいりましたところの道路が未改修になっております。

朝晩はとにかく交通量が物すごく多いわけでございます。通勤、通学、いろいろあります。事故も多数発生しております。

そこで、この武雄伊万里線の改良工事のスケジュール、わかっておられましたらお知らせをいただきたい。お願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

庭木まちづくり部長

**○庭木まちづくり部長〔登壇〕**

（モニター使用）今、モニターに映しておりますのが議員御質問の県道武雄伊万里線、赤穂山工区の写真でございます。

計画延長約900メートルございまして、そのちょうど中あたりの写真を今、映させていた

だいております。

改良計画につきましても、杵藤土木事務所に確認いたしましたところ、今年度は用地買収を計画されておりまして、平成 31 年度から工事に着手する予定とのことであります。

なお、事業主体につきましては、平成 26 年度から 34 年度までの 9 カ年を予定されております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8 番古川議員

○8 番（古川盛義君）〔登壇〕

武雄市内の皆さんが伊万里方面とか唐津方面へ通勤される場合に、非常に混雑するところがございます。一日も早い改修をお願いいたしまして、次の質問に移ります。

財政の問題でございます。

少子高齢化と、労働力人口の減少ということで、武雄市においても人口減少は絶対進んでまいるということでございます。

そこで、武雄市の将来の人口、どのように推計されておるのか、お答えをいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

（モニター使用）モニターお願いします。

おはようございます。今後の武雄市の人口の推計でございますが、平成 27 年 9 月に策定いたしました武雄市人口ビジョンによりますと、ごらんのとおり減少傾向でございます。

2030 年には約 4 万 4,000 人、2035 年には約 4 万 2,000 人、そして、2040 年には約 4 万人になる見込みということで推計をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8 番古川議員

○8 番（古川盛義君）〔登壇〕

2040 年に 4 万 267 人という答弁がありました。

私も人口推計を計算をしてみました。

一般的に言われるのは、平均寿命と言われる数字がございます。男性、女性。ですが、それは全国の存命の方を平均にとるわけでございます。ですから、だれもがそこまでは生きるであろうという数字でございます。

ですが、それと違いまして、平均余命という表がございます。毎年はこれ発表しないのでございますがね。

これ、ここに、小さいんですがね、ライプニッツ係数とかホフマン係数という数字がございます。ライプニッツ係数というのは、——これ2人とも有名な統計数学者でございます。ですから、この数字っちゅうのは特殊な業界しか使いません。

ですが、ライプニッツ係数におきましては、年金の支給金額を上下するというようなことにも使われておりますが、その両方の数字を私なりに駆使しまして、計算をしてみました。そしたら、これ4万と267となつとるんですが、私が計算しましたところ、3万9,740人になるということでございます。

というのはなぜかという、多少誤差があるんですよ。50歳の方があと何年生きる、60歳の方があと何年生きる、70歳の方があと何年生きるという表をずっと加算していきまして、100歳以上はちょっと、もうあと、——ここですね、——20何年ありますので、100歳の方はもう多分存命されないであろうということで切り捨てております。ですが、この3万9,740人という、——ちょっと500人ばかりしか違わんとですね。まあ何とか当たつとるのかなと思います。

そいでですね、その数字を佐賀県に置きかえました。各市町10市10町、経済指数から何から全部、財政力からこう計算しまして、置きかえてみました。2040年に佐賀県の人口が、——今現在が83万人くらいやったですかね、——ですが、65万4,791人という計算になりました。18万人くらい減るんです。

18万人というのはどうなのかという、今現在の人口で、武雄、伊万里、多久、鹿島、嬉野を足した人数が大体18万人ぐらいなんです。それくらい減るであろうという予測が立つんじゃないかと。

昨年、11月に北九州で総務省の、——何って言いよんさったかな、——総務省の自治行政局長山崎重孝さんという方の講演を受けてまいりました。

そのときに武雄市の人口は、2040年にどんくらいになりますかと言うたら、20%近く減りますと言われましたので、その数字を逆算して、3万9,000なんぼの数字で逆算しましたら、大方おうとったとです。

私の計算もそがんまで間違うとらんやったなと思うところでございますが、この人口減少と労働力減少の中、税収がどれくらい減るのか計算をしてあつたら、ひとつお答えを願いたい。

**○議長（杉原豊喜君）**

古賀企画部長

**○古賀企画部長〔登壇〕**

御質問の今後の税収の見通しでございます。

税収につきましては、人口推移のほかに、景気動向、個人、法人所得、また、地価等のさまざまな変動要因によりまして影響がございますので、一概に将来の見通しということで税

収の見通しを立てることは現在困難であるかと考えておりますが、この人口推移という観点から見ますと、一般的に人口減少の影響を受けやすいとされる個人住民税におきましては、税収の主な担い手であります15歳から64歳、——いわゆる生産年齢人口でございます。ここが、2030年には約2万4,000人、35年には2万3,000人、2040年には2万1,000人というふうに減少をするというふうに見込まれております。

個人住民税の税収を著しく厳しくする要因の一つであるということの可能性はあるかと考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番古川議員

○8番（古川盛義君）〔登壇〕

税収が減ると。当然でしょうね。人口が減ったら税収は減るわけでございます。減らんの固定資産だけです。

昭和50年、定かではございませんが、50年ごろ、私、武雄市役所にある用事でお伺いしたことがあるんです。その当時、牟田議員のお父さんが牟田市長さんでございました。その当時、武雄市が大変な財政状況であったというのも知らずに参りました。

そのとき、牟田市長さんが、今の武雄市の、さかしいつったけんで鼻血も出んばいと言いなさったです。そいけんが、何じゃいろ、要望にきたとないば帰えやいとされたとです。そいぎ、うんにゃ要望にきたとやなかと。要望にきたとやなかとよ。それで、ないやと言うたら、私は保険会社に勤めよりましたので営業に来たと思うとんさつとです。

そいぎ、違いますよと。小学校1年生に、今、ここに黄色いワッペンが、保険つきのワッペンがあるとです。それを私どもの会社のグループ会社で出しよったから、武雄市という名前がこう、ずら一つとしたとこになかったからです。牟田市長さんをお願いにきたような次第でございまして、そのとき一発目でもう、鼻血も出んけん帰れって言われて帰されたとです。その後、その年3月の半ばごろ、いんにゃくいろと言われて持ってきたようなこともございます。今でも多分、小学校1年生にワッペンがきよると思います。

ですが、そういうときにですね、そう言われました。そういうつらい時期を乗り越えて、今の武雄市があるんでございます。その当時のことは皆さん御存じだと思いますけど。議員の皆さんは余り、その知った人、多さないやろうばってんが。

ですが、そういうふうになさないために、今後です、今後、現在の福祉、教育、いろんな分野のことを維持していくというのは、2040年、大変だろうと思うんです。

ですから、少しでも前もってです。前もって補助金、交付金、いろんな事業をするわけでございますが、費用対効果のない事業というのをとにかく精査していくことをやっていかないと、財政がきつくなってからそれをやりますと非常に住民感情が悪くなるわけです。

ですから、少しずつ、少しずつ、そういう施策をやっていくと、補助金、交付金を縮めて

いくという努力も必要じゃないのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。監査委員ということで財政に大変お詳しいので、いろいろ承知だと思うんですけれども、さっきからお話が出ています人口減少、高齢化、さまざまな面で社会保障費がふえていく、財政が大変こう厳しくなっていくというふうに思っております。

そういう中で、財政の運営で私が大事なものは、以前も議会で申し上げましたけど、やはり収支の均衡だと思っています。

今、山崎財政課長を中心に、本当にいろいろ細かく頑張ってもらっていますけれども、収支均衡というのは、例えば入りの部分については、まさに新幹線、これからであれば新幹線などの開通を狙って経済をよくし、税収を上げ、そして入りをふやす。あとは、競輪とかからの繰入を少しでもふやしていったって、稼ぐ自治体として収入をふやす、そして、政策的経費であったり、福祉に使える財源をしっかりと確保するというのが一つあると。

もう一つは、一方で出のほうですけど、ここは確かにおっしゃるとおり、選択と集中は必要だと思っています。

どうしても行政ですから、基本、費用対効果ではありませんけれども、やっぱり行政しかできないサービスというところも、特に福祉はありますので、そこも考えて事業の選択と集中、これをしっかりとやって、必要なものには、そこは必要だからちゃんと出すというような考えで収支の均衡を図っていくというのが大事だと思っています。

まさに、古川議員の御指摘はおっしゃるとおりですので、ぜひ私たちもそこをしっかりと踏まえて財政の持続的な運営、ここについては取り組んでいきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番古川議員

○8番（古川盛義君）〔登壇〕

転ばぬ先の杖という言葉がございまして。とにかく今から少しずつ、市長が言われます収支の均衡ということを考えながら市政を運営していただきたい。

次に、基金についてお尋ねをいたします。

現在の基金残はいかほどあるのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

（モニター使用）モニターお願いいたします。

おはようございます。基金の残高ということでございますけども、モニターは競輪と給湯

の特別会計を除く、いわゆる普通会計に属する基金残高の推移でございます。

合併直後の平成17年度末の現在高が79億6,000万円。すみません、——17年度末の現在高が79億6,000万円でございます。

合併による支援措置等もございまして、平成27年度に126億円になりましたけれども、その後、新庁舎、あるいはこども図書館、学校施設等の大型事業もあって、平成29年度末の残高は107億5,000万円でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番古川議員

○8番（古川盛義君）〔登壇〕

市報にも、——（資料提示）皆さん、こういう円グラフを見られたと思います。それから、28年度の武雄市財務書類という、財務4表が載った書類も持っておられると思います。

ですが、ここ数年、基金を取り崩して当初予算を組むということが続いております。これは、地方公共団体が単年度決算であり、現金主義で単式簿記でございますので、予算ずっと使って、3月にゼロになるわけですね。4月にまた100になるわけですね。

ここで結局、収支が非常にわかりにくいと。ですね。わかりにくいようになっております。

ですから、今年からですか、28年度からですか、財務4表、ここにつくっていただいております。この財務指標に云々の文句は言いません、総務省の規程に沿ってつくってあるものと思います。

ですが、これ市役所の職員さんをお願いなんです。一般企業でいいますと、赤字が出たら、その赤字をずっと引きずって、黒字になすために努力をしていくわけですね。ですから、本来、赤字になった分、こう基金がずっと減っていくんです。基金が減っていくんです。

この基金の中にも、多分恐らく、一般会計に使えるやつと、使えんやつと2種類あるわけですね。ですが、この市報に載った円グラフを見ますと、公債費というのが25億円ございます。これ借金の返済でございます。基金の繰り入れというのが21億ございます。武雄市はですね、今、借金を基金で払いよるという状況でございます。違いますかね。

ですから、今後、公務員の皆さんの定年延長も多分、近い将来あるんであろうと思います。ですから、私は基金を取り崩して当初予算を組むということは、余りよろしくないと思っております。

総務部長、見解をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

当初予算の編成におきましては、ここ数年来、議員御指摘のとおり、基金繰り入れ、いわゆる基金の取り崩しで対応せざるを得ない状況が続いております。

基金も平成 27 年度の 126 億円から 29 年度末までに約 20 億円減少しているという状況であります。

今後とも、行政改革の推進によって、財源の確保と経費の節減に努めながら、基金に頼らない予算編成ができるように、収入に見合った財政運営ができるよう体質改善にも取り組んでいきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8 番古川議員

○8 番（古川盛義君）〔登壇〕

そのように、ひとつ努力をしてくださいよ。どうしても、どうしてもというときは、しかたございません。

だけど、この基金も私が推測するに 5、6 年でやばかとです、今の状態で行けば。ですから、これを大切に、この基金を使うということをひとつ考えて予算編成をお願いしたい。

最後に市長にお尋ねいたしますが、今後、武雄市がこの基金、どのように利用していかれるつもりなのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

基金について今、武雄市の予算編成でいうと、おっしゃるとおりですね、当初予算の段階において不足している分を基金で埋めて、そして、年度途中にある繰越金から一定割合を、——ルールありますので、——それをまた基金に戻すというか、積み立てると、そういうふうなサイクルで予算を運営しているところでもありますけれども、おっしゃるとおり、特に財政調整基金ですね、この部分については、例えば災害であるとか、税収が急激に減ったとか、そういうときに年度間の差が出てはいけないので、平準化するために使うというのが一番の基本であろうというふうに思っています。

余りじゃあ使い過ぎなくて、なかなか武雄市ではこれから考えにくいかもしれないですけど、使わずにずっと貯金ばかりするっていうのも、またこれ世代間の不公平にもつながりますので、やはりこう一定規模をしっかりと保つというふうな考え方が私は大事だと思っております。

ぜひ、ここは先ほど部長も言いました行革、経費節減、そのあたりにも努めながら、基金はやはり一定規模は維持をしていくというのを原則に、必要なときは使わなきゃなんないですけど、その考え方を大事にして持続的な財政運営、ここに努めていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8 番古川議員

○8番（古川盛義君）〔登壇〕

財政は生き物でございます。とにかく、一歩間違えると大変なことになるというのが現状でございます。

総務省の講演でお聞きしましたが、多分 2040 年には全国の市町村が3分の1は消えてなくなると、財政が成り立たなくなるといような予測もされております。

とにかく武雄市のかじ取り、今後とにかくしっかりやってほしいと。我々議会も、あいばせろ、あいばせろばかりじゃなくて、何をやるかということを考えればいかん時期がもう来ておるといことを考えております。

どうか武雄市の財政が健全に進みますように、私も努力いたします。皆さんも、職員の皆さんも、とにかく努力をしていただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で8番古川議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休 憩 9時35分

再 開 9時47分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、6番吉原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、6番吉原新司の一般質問をさせていただきます。

何分4月の選挙で初当選させていただいた新人で、今回初めての一般質問ということになります。不備な点が多々あるかと思っておりますけれども、御容赦いただきたいと思います。

今回、市政についてということで4点質問をしていきたいと思っております。

1つ目は旧庁舎の今後について。

2つ目は旧支所について。

3つ目は武雄市のイベントについて。

4つ目は駅周辺の活性化についてであります。

まず、ここで、何か前置きを言って質問に入るのしょうけれども、緊張しておりまして、余裕がございませんので、早速一つ目の質問に入ります。

旧庁舎の今後についてということです。

ことし5月からここ武雄市役所、新庁舎での業務が始まりました。

その 52 年間、武雄市の心臓部として行政の歴史が刻まれていると思います。その旧庁舎のほうですけれども、今後、解体をされて駐車場として整備をされるということのようですが、そこでまず、旧庁舎と隣接する車庫あたりの解体、それに係る費用と工事の時期、これをまずお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

旧庁舎の解体でございますけれども、ことし 8 月 30 日に入札が行われまして、9 月 4 日に契約を済ませております。契約金額は 1 億 3,834 万 8,000 円でございます。

工期につきましては、平成 30 年 9 月 4 日から平成 31 年 1 月 31 日までとなっております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番吉原議員

○6 番（吉原新司君）〔登壇〕

もうすぐ解体に入るというようなことのようにです。

旧庁舎、52 年間の歴史の中に思い出のある方もいらっしゃるのではないかと思います。特に市の職員の皆さん、職員 O B の皆さん、先輩議員の皆さん、議員 O B の皆さんや市民の方の中にも旧庁舎にはいろんな思い出、思い出がある方がいらっしゃるのではないかと思います。

そんな思い出の詰まった庁舎が解体されるわけです。できるようでしたら、解体前に旧庁舎お疲れさまイベントみたいな催しをできないかと思えます。

市民の皆さんの声には、市役所はいつも行くところ以外しか入ったことないとか、市役所内にそういう部屋もあったんですかという声をよく聞きます。旧庁舎内を開放して見学してもらったり、子どもたちを呼んで、壁や床などに自由に落書きをしてもらったりなど、思い出づくりができるのではないかと感じますが、いかがでしょうか。

そして近年、日本列島、至るところで災害が発生しております。それに伴い、各地で防災に関するいろんな取り組みもなされております。先週も、今度は北海道で大規模な地震が発生をいたして、甚大な被害が出ております。

旧庁舎が解体されるようであれば、解体前に大規模な地震発生などを想定して、消防団と消防署が連携して、建物内から取り残された市民を救出するなどの訓練を行ってみてはどうかと思えますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

旧庁舎を解体前にイベントなどできないかという御質問でございますけれども、既に解体

工事を発注しておりますので、特にイベント等の考えは持っておりません。

ただ、先ほど言われました消防等の関連で防災訓練等ということでございましたら、工期や工事に影響や支障がないことを前提に、事業者の方と話をしてみたいと思います。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

静かに。

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

余りもう時間がないので、いろんなことはできないというような答弁のようです。

公共の施設を解体すると、こういうときしかできないことというのがあるんじゃないかなと思います。何らかの活用をしてから解体に入っていただければと思います。できる範囲で構いませんので。

次に、建物を解体した後、駐車場として整備されることのようにです。

昨日、牟田議員さんも旧庁舎跡地の駐車場の件が出ておりましたけれども、私も、とりあえず駐車場にすることはよいのではないかと思います。新庁舎の狭い駐車スペースの面からも、後々大きな施設を新築することがあったりすることのために備えても、早速何かを建てるのではなく、駐車場として整備が適当ではないかと思います。

そこで建物解体後ですけれども、駐車場整備に係る費用、そして駐車場が完成してしまう予定時期など、わかったら教えていただきます。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

駐車場の舗装費用といたしましては1,976万4,000円の予算を計上しております。

工期につきましては、旧庁舎建物の解体後、2月以降になろうかと思いますが、できるだけ早目の対応をと考えております。

それから、その規模でございますけれども、具体的な設計はこれからになりますけれども、収容台数の見込みとしては210台程度ではなかろうかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

2月ぐらいからとりかかるということのようですけれども、大体、年度内でできてしまうのでしょうか。

そして、この210台ぐらいの収容台数と、これは白岩競技場の下駐車場と比較してみ

どれぐらいの感じになりますか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

工期につきましては今年度の予算計上でございますので、年度内の完成を見込んでおります。

それから、規模といたしましては、白岩競技場下の駐車場が245台ということになっておりますので、ややそれよりも狭いということになります。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

年度末までに駐車場として整備ができてしまうというようなことです。

そして、210台の収容台数は、白岩競技場下の駐車場より若干狭いのかなと。でも、かなり、相当な広さになると思います。

そして、市民の皆さんが一つ心配されているのは、新しく駐車場ができた場合、夜間の駐車を制限されるのではないかと、そういうことも言われております。

新しい駐車場ができた場合、夜間の駐車ですけれども、これまで同様開放されるつもりでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

駐車場の管理につきましては、今後検討してまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

検討していただくと。

やはり川端通り、これがございますので、川端通りのお店の皆さんはやっぱり、あそこにとめるスペースがあるってことでかなりお客さんに来ていただくのに左右されるんじゃないかと思えます。なるべく、全面的な開放じゃなくても、一部でも、半分でも開放して飲食店の皆さんに還元できるような駐車場になればと思います。

そして、広さもそこそこ、210台ぐらいのスペースがあるということのようですけども、あの旧庁舎跡地は駅から歩いて5分ぐらいしかかからないと思います。

そこで、今、毎年やられていますけど、物産まつりとか、またフリーマーケットとか子どもたち向けのヒーローショーとか、いろんなイベント会場としても活用ができるのではない

かと考えますけれども、そういうことに使用するということは可能なのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

解体後の敷地につきましては、今後、その活用方法について公園等の関係、それから周辺との活性化の観点も踏まえた上で協議をしてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

これから協議をするということですね。

やっぱりこう、駅からもう歩いて5分ぐらいで来れるというところですので、物産まつりも今、文化会館の駐車場とかでやられていると思いますけども、やはり駐車スペースがかなりないような感じもします。旧庁舎であれば電車で来て、物産まつりを楽しんで、電車で帰るということも可能かと思えます。

そして、やっぱりイベントっていうのは土曜日、日曜日、祝祭日というようなことが多いと思います。職員さんの方々も土曜、日曜、祝祭日はお休みなんで、駐車スペースもあいてあるんじゃないかと思えますので、駐車場としての利用だけじゃなくて、駅から近い立地条件を生かして、いろんなイベント会場としても活用していただけるように検討していただきたいと思えます。

続きまして2つ目、旧支所についてお尋ねをいたします。

ことし5月から新庁舎での業務が始まり、支所として機能しておりました山内支所と北方支所は、行政の機能を終えたわけでございますけれども、この2つの旧支所は現在どのような役割をし、今後どのように使用していくつもりか、また、現在どのような団体が旧庁舎内にあるのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

旧山内支所、旧北方支所の現在の利用状況でございますけれども、旧山内支所の1階にNPO法人若楠とNPO法人武雄みふね会、それから2階に社会福祉法人天童会と武雄市商工会、3階には神村学園といった団体利用があつてございます。

それから、旧北方支所の南棟は利用がなされておられませんけれども、北棟の1階に武雄市社会福祉協議会が、それから同じく2階を武雄市保護司会が利用されているといった状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

続きまして、今後の方針ということでございましたけども、旧両庁舎の活用方針でございますが、山内、北方におきまして、統一した活用方針というものは定めておりません。

ただ、先ほど総務部長からもありましたように、現在、山内支所につきましては、多くの団体さんが活用されているという現状でございます。

また、旧北方支所におきましては、北側庁舎につきましては、主に社会福祉協議会等が活用されているという状況でございます。

今後この庁舎につきましては、利用状況を見ながら検討していきたいと考えておりますが、旧北方支所南庁舎につきましては、現在、活用方法については検討中でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

旧山内支所については、5つぐらいの団体が入っておられると。旧北方支所は、南棟のほうは何も入ってなくて、北のほうに2つ入っているというようにお聞きしました。

旧北方支所に関しては、南棟のほうが新しい、平成8年にできて築22年ぐらいだと思います。この新しいほうには何も入ってなくて、北棟、——これは昭和45年に建ったようで築48年ぐらいなっている。こちらのほうに2団体入っているということで、新しいほうには入っていないということですよ。

そしたら、旧山内支所に関しては5つぐらいの団体が入っているので、余りあきもないのかと思います。ただ、旧北方支所は南棟が新しいのに何も入っていないということは、がらあきだというふうに思います。

もし、空きスペースを賃貸で借りたいというようなことがあれば、これは可能なのか、また賃貸で入る際に、いろんな条件等がかかっているのか、そこら辺を教えてくださいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

旧北方支所につきましては、今年度当初まで北方支所として活用を全面的にしておりますが、今あいた状態でございますが、これにつきまして今後の、先ほど質問のあった分も含めて現在検討しておりますので、もうしばらくお待ちいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

検討しているということですが、先ほども申しましたけれども、旧山内支所と旧北方支所の南側の棟、これに関しては築年数がまだ25年前後と、まだまだしっかり使用できるんじゃないかというふうに思います。

市民の皆さんの中には、何かちょっと事業を始めたいんだけど、起業をしたいんだけど思っているけども適当な場所がないとか、賃貸料のことを考えると、ちょっと一歩踏み出せないという方もいらっしゃると思います。

そこで、まだ築年数が25年前後という旧山内支所、そして旧北方支所の南側の棟、これの内部を多少改装して、武雄市民限定で賃貸料を安く設定をして、事業を起こしたい方の支援になるような貸し出しというのはできないものか。

もちろん、いろんな契約年数であるとか、いろいろ決めなくてはいけないことは多々あるかとは思いますが、起業を希望する方に賃貸で貸すという、こういうことは考えられるのかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

先ほどから申し上げておりますとおり、現在検討中でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

これは団体であっても個人であっても、ちょっとそういうふうな、そこら辺は検討中ということですね。

そして、旧北方支所の北側の棟、これはもう築48年ということになっているようで、これからいろんな手を加えたりするのは、ちょっともう無駄かなと。維持費なんかを考えたら、この北側の棟に関してはもう解体をしたほうがいいんじゃないかと思えます。

もし解体というふうになるようでしたら、先ほど1つ目の質問でも言いましたけれども、市民の皆さんとのイベントであるとか、救助の訓練であるとか、そういうふうなことに利用してから解体というふうにもっていただければと思います。

3つ目の質問に入ります。

武雄市のイベントです。イベントについてです。

ことし5月に竿燈まつりIN武雄ということで、8万人が来場して大盛り上がりをしたわけですが、市民の皆さんからはとてもすごかったと、とても感動したというような声がたくさん聞こえて、大好評だったんじゃないかと思っております。

中には、次はいつ竿燈まつりば呼んでくんさあとやろかとか、毎年来てくんさあぎんた、うれしかばってんねというような声も聞かれました。

本場秋田の、ことしの竿燈まつりですけれども、4日間で131万人の来場と伝えられています。確かに、伝統があって、二百数十本の竿燈が大通りを埋め尽くす、すばらしいお祭りだと思います。

しかし、ここは武雄でありまして、武雄のイベントで盛り上がるのが理想的ではないかと思えます。

武雄は、花火大会もないまちというイメージがついております。花火大会だけでも、お隣の嬉野市、嬉野町と塩田町の2カ所で行われております。

嬉野温泉夏まつり花火大会、これには4万5,000人。塩田夏まつり花火大会、これには1万4,000人の来場者数が示されております。嬉野温泉の夏まつり花火大会だけで武雄市の人口に迫る来場数です。

武雄も相当前になりますけれども、御船山花火大会というのが毎年開催されてにぎわってありました。何かのちょっと出来事がきっかけで開催がされなくなったわけですけれども、もし武雄で花火大会だけを開催したとしても、秋田竿燈まつり I N武雄の来場数には及ばないのは明らかだとは思えます。

やはり、武雄は武雄独自の、秋田竿燈まつり I N武雄の来場者数を超えるようなお祭りやイベント、これが考えられないのか、西九州のハブ都市としても、年に1回ぐらいの大イベントは不可欠ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

古賀企画部長

**○古賀企画部長〔登壇〕**

イベントについてでございますが、市内で行われますイベントにつきましては、各町や各団体等が行っていただいているイベントと、市が主催をしているイベントとがございます。

先ほど議員がおっしゃられました武雄での花火大会につきましては、これは市の主催ではなく、もともと青年会議所さんが行われていたイベントというふうに伺っております。これにつきましては、費用面で非常に厳しくなり中止せざるを得なかったというふうな状況であると思えます。

市のイベントの開催につきましては、目的や費用、また効果等を総合的に勘案しながら、実施の必要性等につきまして適宜判断していきたいというふうに考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番吉原議員

**○6番（吉原新司君）〔登壇〕**

このイベントも、考え次第で経済効果はかなり生まれるんじゃないかというふうに私は考えます。この前の竿燈まつり I N武雄の際も、経済効果かなりあったというふうにお聞きしております。

ぜひ、今後新幹線も来ますし、武雄をどんどんアピールしていく上でも工夫を凝らし、武雄らしさを出して誇れるイベントを考えて開催すべきだと思います。

県内で主なイベントですけれども、お隣、有田町陶器市7日間で100万人、佐賀バルーンフェスタ5日間で80万人、世界選手権があったときは131万人ということになっております。そして唐津くんち3日間で63万人と、すごい来場者数でございます。

新幹線駅があり西九州のハブ都市として注目されるには、大きなイベントも見どころの一つになるんじゃないかと思います。

イベントをやるって簡単ではないんですけども、どのようなイベントがいいのか、どこの場所でやるのか、いつごろの時期が適当なのか、いろいろ考えなくてはいけないことも多々あるとは思いますが、市民の皆さんの意見や要望、これを公募などをして、武雄市に合ったイベントを考えられないかと思います。

そして来年5月には元号が変わり、数十年に一度しかない元年と呼ばれる年になります。ほかの市町村さんも、この元年にあやかってイベントを絡めてくるところも出てくると思います。

できれば武雄市も、元年からスタートできるような、武雄市が大盛り上がりするような大イベントを検討していただければと思います。

それでは4つ目、最後の質問に入ります。駅前周辺の活性化についてです。

九州新幹線西九州ルートが、2022年開業を目指して工事が行われております。

武雄長崎間はフル規格ということになっております。そのため、武雄温泉駅は新幹線を乗りおりする拠点の駅になると考えられます。

利用者から見た駅舎のインパクト、これに加えて駅を出たときの好印象を持たれるような駅周辺があれば、ゆっくり武雄を探索してみたいと興味を持っていただくことも大切じゃないかと思います。

現在、武雄市周辺の活性化につながるような事業、何か計画、工事はなされておりますでしょうか、お尋ねします。

**○議長（杉原豊喜君）**

庭木まちづくり部長

**○庭木まちづくり部長〔登壇〕**

駅周辺の活性化に向けた整備につきましては、今、市が進めている事業といたしまして、駅北口を区画整理事業によります交通広場、歩道、乗降場等の整備を行い、これらにつきましては既に完了いたしております。

また、駅の北口と南口を結びます連絡道路を駅の東側に今現在整備しておりまして、人と車の流れを円滑にいたしたいと考えております。

さらには、駅南口広場につきましても、バスの待機場、タクシー待機所などを整備し、市

民の皆様や観光客の方々が利用しやすい施設の整備を行うこととしております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

北口のほうは確かに広い歩道をとっていただいて、交通広場ですか、緑がきれいなロータリーみたいなのところもつくられているようです。あと連絡道路、これが北口から南口につながると。そして、南口にはバスとかタクシーの待機所を設けるということのようです。

前回の議会でも、足湯があったほうがいいんじゃないかとか、いろんな意見が出ておりました。駅周辺には多種多様なものが存在したほうが、駅周辺の活性化にはつながるんじゃないかと思います。

例えば線路の高架下に飲食店や雑貨店、特産物の販売をするスペースをつくったり、子どもたちが雨の日でも遊べるようなスペースを確保したりとか、あと、先ほどの交通広場とかロータリーあたりに、武雄でつくられたと言われているアームストロング砲のレプリカを置くとか、そういうさまざまな見どころをつくって、観光客の方々が武雄温泉駅周辺で一日遊べる感を持てるような駅周辺づくりをしてはどうかと考えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

駅周辺のつくるということでございますけど、現在、武雄市におきまして、新幹線駅高架下及び駅周辺高架下の活用計画を策定しております。

それから、新幹線活用プロジェクトも動いておりますので、その中で今後は煮詰めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

今から検討するということですが、やはり高架下っていうのを結構利用するといい感じになるんですね。唐津駅は屋台が入っていたりだとか、やっぱり飲食店とかいろんなことが建物を建てずに、——建てずにとしたらおかしいですけども、まずは屋根があるものですから、そしてやはり駅周辺の活性化にも相当つながると思いますので、ぜひいろんな形で利用できるような高架下も考えていただきたいと思います。

そして、駅周辺のことで一つ例を挙げさせていただきますと、佐世保市にアルカスSASEBOという文化施設がございます。昨日、牟田議員さんから大型客船のお話が、佐世保の

ことで出ておりましたけれども、ちょっと私は文化施設のアルカス S A S E B O という文化施設のことになります。

皆さん御存じのとおり、佐世保市は人口が武雄市の約 5 倍、駅周辺も御存じのとおりもういろんなものがあってとてもにぎやかなまちでございます。その駅から徒歩 5 分以内、この立地条件にあるのがアルカス S A S E B O という文化施設でございます。

駅周辺に文化施設があれば、まず、マイカーを使わずに電車で来て電車で帰ることができる。特に武雄は新幹線というのが来ますので、本当に駅の利用が活発になると思います。そして、近くに飲食店等あれば開演前や閉演後に食事もできると。免許がない学生さんたちにとっても、駅から近い文化施設というのはとても便利じゃないかと思います。

武雄市にございます文化会館、これが昭和 49 年完成で今、築 44 年になると思います。前議会で山口昌宏議員さんからも文化会館の件が出ておりましたけれども、そろそろ建てかえるのか、大規模な改修工事を行うのか、こういう議論が出てくるころじゃないかと思います。

建てかえを考えたときに、旧庁舎跡地に文化会館を新築すれば駅周辺の活性化にもつながり、にぎわいも増すのではないかと思います。

もちろん、駐車場も必要ですので立体駐車場を隣接させるとか、そういうふうにして駐車場も確保するみたいなことで、そうなれば一段と駅周辺が活性化するのではないかと考えますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

水町総務部長

**○水町総務部長〔登壇〕**

旧庁舎の活用方法あるいは庁舎周辺の駐車場の確保につきましては、税務署の開業あるいは駐車場の不足状況もこれから見えてくると思いますので、まちなかの活性化、新幹線の開通等さまざまな条件を考慮しながら検討をしてみたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

6 番吉原議員

**○6 番（吉原新司君）〔登壇〕**

さまざまな考えで活性化につなげていただきたいと思います。

先ほどの文化会館の件は、まだまだ先の話になってくることかとは思いますが、駅周辺の活性化にはつながるとは思います。

そして、いろんな面から考えていただいて、新幹線駅のある武雄温泉駅周辺は見所満載と自信を持って武雄のよさをアピールできるようにしていただくことを申し上げ、6 番吉原新司の一般質問を終わります。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で 6 番吉原議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	10時22分
再	開	10時33分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、2番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、2番豊村貴司、一般質問を始めます。

今回はスライドにある4つの項目について質問を行います。

まず最初に、前回の6月の一般質問では人口減少社会、人口構造が変化する社会の中でどのように武雄市を進めていくかということ質問していきました。その中で、オール武雄で取り組むということも述べました。

また、平成29年6月議会でも、広域での連携の協議の際に民間と協力しての戦略を立てることを質問したりと、これまで官と民が連携していくことも必要な視点として何度も述べてきたところです。

皆さん御承知のとおり、武雄市においては教育大綱として「組む」を掲げ、地域の力や民間企業等と連携して取り組みを行っています。この「組む」ということ、このことは教育の分野だけでなく、先ほども述べましたように、人口減少社会における行政運営において今後、より必要なことと考えます。

「組む」ということ、つまり武雄市にも市民協働課とあるように、市民、つまり行政としての市と民間、この市と民間における協働の視点、公民連携が行政運営を行う中で、必要に応じ取り組むべき点と考えます。

そこでまず最初に伺います。これからの行政運営において公民連携ということ、このことをどのように考えているか、見解を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

豊村議員おっしゃるとおり、これからのまちづくりは単独ではできないというふうに思います。行政、市民、NPO、企業、さまざまな人たちが一緒に組んで連携をして、市民福祉の向上のために取り組んでいくと。まさに公民連携というのはいわばスタンダードというか、当たり前な時代になったというふうに考えております。

指定管理者制度をとってみても、たしか15年前にスタートをして、もはやスタンダード

になってきているというふうに思います。

教育分野で組むということで、花まる、ICT、さまざまな分野で公民連携を進めておりますけども、それ以外にも、例えばまちづくりの分野であるとか、それこそ朝市であるとか、最近だと高校との連携とか、その公民連携の分野というのは広がってきています。

ぜひそこはこの流れをしっかりとさらに前に進めていくということで「組む」、そして公民連携、ここについては引き続き、武雄市はほかの市に先んじて取り組んでいきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

市長も言われましたように、やはりいろんな分野で確かにあると思います。やはり民間の力、民間のアイデアというところをうまく生かしていく、そのことが行政だけじゃなくて市全体としての底上げにもつながっていく、活性化につながっていくんじゃないかなというふうに思います。

質問の最初の項目なんですが、空き家対策についてということで、これも公民連携の一つとして、今回8月28日に一般社団法人全国空き家バンク推進機構と連携協定を結ばれました。連携を組むということは、やはりそこにメリットを期待してということもあり、また、市単独で行う場合の課題等もあって考えられた部分もあると思います。

武雄市もこれまで空き家対策については、空き家バンクを取り組むなどしてこられていますが、この空き家対策事業ということについて、これまで市として取り組みながら感じた課題について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

議員の質問にお答えをいたしたいと思います。

市の取り組みといたしましては、空き家対策事業として危険空き家等の所有者に対しまして助言、指導、広報活動による空き家の適正管理の啓発、空き家・空き地バンクへの登録推進等を図っているところでございます。

また、本年度より危険空き家除去に対する補助金の見直しを拡充して、その対策を講じているところでございます。

空き家の老朽化、管理が不十分なことにより、危険な空き家の増加が危惧されている現状でございます。空き家の適正な管理や利活用について、所有者の意識づけが今後の課題というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

## 2 番豊村議員

### ○2 番（豊村貴司君）〔登壇〕

武雄市においても各取り組みをしてこられていて、その中で所有者についてというところ、ここが課題であるというふうなところが言われました。この点は武雄市だけではなくて、全国的にも同じような課題もあるのかなというふうに思いますが——先ほど述べました武雄市と全国空き家バンク推進機構との間で連携協定が結ばれています。

佐賀新聞の記事によりますと、8月29日の記事では武雄市全国空き家バンクと協定、交通弱者対策も連携というタイトルで、武雄市は28日、全国空き家バンク推進機構と空き家の利活用などで連携する協定を結んだ。空き家の解消だけではなく、交通弱者対策等の地域課題にも機構と連携する民間企業の協力を得て取り組む。機構は民間企業とも連携し、空き家対策に加えて各自治体の課題や社会問題にも取り組んでいる。自治体との連携協定は3例目で、佐賀県内では初めてということで、別府市、北秋田市、そして武雄市というふうな形で連携がとられているのかなというふうに思います。

そこで、この8月28日に連携協定を結ばれました全国空き家バンク推進機構、この概要について及び武雄市が連携協定を、協力を結ばれました、その中身について答弁をお願いいたします。

### ○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

### ○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

議員の御質問であります一般社団法人全国空き家バンク推進機構でございますが、空き資源の利活用を通じて地方創生と公民連携の実現を図ることを目的として昨年6月に設立がされております。また、本年4月より本格的な事業をされているところでございます。

機構の役員は行政経験者、学識経験者、企業経験者により構成をされており、事務局には武雄市を初めとします自治体職員3名が配置されているところでございます。

推進機構は全国140以上の民間企業と連携を既にされており、自治体の連携といたしましては、先ほど議員が言われました武雄市のほかに別府市、北秋田市と協定を既に締結をされているところでございます。

今回の連携協定の内容は、空き家等の利活用及び発生の予防に関する事、地域課題の解決及び地域活性化の実現のために必要な事業に関する事を目的として結んだところであります。

具体的な取り組みとしましては7つの項目を挙げております。

- 1つは、高齢者及び障がい者等の交通弱者対策に関する事。
- 2つ目は、特定空き家等の対策に関する事。
- 3つ目は、雇用の創出に関する事。

4つ目は、防災対策に関すること。

5つ目でございます。循環型社会の実現に関すること。

6つ目でございます。空き家及び空き資源等の利活用を推進する人材の派遣及び育成に関することを挙げております。

最後の7つ目でございますが、その他地域課題の解決及び地域活性化のために必要な共同開発、共同研究などに関することの具体的な7項目を挙げているところでございます。

今後につきましては、双方で協議をしながら進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

その機構は全国の140以上の民間企業と既に連携をされているということで、こういった部分が公民連携の中で武雄市単独ではできない部分での幅が広がる部分にもつながるのかなというふうに思います。

今、口頭で連携協定の協力の中身について述べてもらいました。私も記者発表に行き、後ろのほうで見えていましたので、そのとき資料をいただいたので、——すみません、今せっかく言っていたんですけども、——まとめてスライドにしていました。こういった7つの項目が挙がっているということです。

具体的なところはこれからということではありますが、先ほど言いましたように、別府市、北秋田市、もう既に連携を組まれていて、私もその別府市、北秋田市が連携協定を結ばれたときの新聞記事っていうのを引っ張り出してみたんですけども、それぞれの自治体でこの連携協力の中身がそれぞれ違うなというところがありました。

別府市、7月に連携されて、そのときの大分のほうの新聞記事によると、温泉地域の空き旅館・空き資源の利活用に係る地域住民主導の「おもてなし」空間の創出に関することや、空き家等利活用を推進する人材の派遣及び育成に関すること、「無道路地の老朽空き家」の利活用事例づくり及び国への政策提言などを連携して行うとされているようです。

また、8月に連携協定を結ばれた北秋田市においては、取り組み内容は「教育留学制度」、「企業研修」、「レンタル自転車のシェアサイクル」、「商店街活性化」、「生涯活躍の場」、「空き家及び空き資源等の利活用を推進する人材の育成」などに関することとされています。

このようにそれぞれ、機構が連携を結ばれた自治体それぞれによって、連携の協力の中身が違うということ、この部分はやはりそれぞれの連携をする先の状況があつてのことと思いますが、武雄市においてこういうふうなこの7つの項目、ここに挙げた中身について、じゃあ武雄市においてはどういうふうな形で決まったのか、この点について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

連携協定に至った経緯でございますが、全国空き家バンク推進機構が別府市と去る7月18日に連携協定を締結したことを、派遣職員のほうから報告を受けたところでございます。

その連携協定の内容は、先ほど議員がおっしゃいました、空き家だけではなく移住、定住、企業誘致、地域振興などを盛り込んでおられたというところを、内容を確認したところでございます。

このことを受けまして、庁内で連携協定について検討をしたところでございます。

全国空き家バンク推進機構が連携している全国140以上の民間企業とのマッチングで、民間企業が持ちます知識や技術力によりまして、武雄市の――先ほど7つの項目を挙げておりますが、この重要な課題を解決することが期待できると、武雄市といたしましてもメリットがあると判断し、今回の連携協定の締結に至ったところでございます。

今後はこの協定内容について、派遣しております職員が武雄市を拠点といたしまして具体的な事業等の検討、調整を行っていく予定と伺っております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

今、言われましたけれども、協議を行ってこの中身になったと。

今回の質問の最初のところで、今まで取り組んでこられての課題はどういったところですかというふうなところをお聞きしました。そのとき所有者の話がありました。

改めてなんですが、やはりここに挙がってる部分も、さまざまな課題の中で空き家に関係してくる部分、そういったところでこういった中身になった経緯があるんじゃないかなと、私はちょっと思ったところではあるんですが、改めてその点について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

現在、武雄市において、空き家数としましては832戸を把握しているところでございます。

市といたしましても、いろいろな事業、補助をつくりまして空き家の減少に対して対策を練っているところでございますが、やはりその空き家を放置していくと、その空き家はどんどん老朽化して危険な状態になっているのが今の現状でございます。

この対策といたしまして、まず利活用、危険な空き家になる前に何とか民間の力を借りま

して危険な空き家になる前の対策を練っていききたいというふうなことで、今回の締結に至ったわけでございます。

中でも、市の考えとしましては、危険な空き家になったところを解決しているのも一つの対策ではございますが、今後その空き家が増加しないように予防していくのも一つの対策だと考えております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

利活用しながらというところで、課題としてというところと思うんですが、もう少し突っ込んで伺いたいところでもあるんですが、先ほど予防というところを言われました。

小松市長、この連携協定のときの記者発表の中で、小松市長も空き家の予防ということを言われました。私も昨年9月議会の一般質問において、空き家の予防という点で質問を行ったところであります。

ふえた空き家をどうするかということもありますが、あわせて、考え方によってはそれ以上に空き家をふやさない、どのようにしてふやさないようにするか、その予防の取り組みは大事だと思いますということで質問をしました。

この8月28日の協定のときの、——先ほど理事が言われた予防という点については、小松市長は、住んでるところでずっと暮らせるまちにするのが究極の空き家対策と考える、有意義な連携になるよう尽力したいと挨拶したと書いてあります。

現在、武雄市も地域包括ケアシステムの構築の取り組みであるとか、取り組んでいるところではありますが、この小松市長の空き家対策がやっぱりまちづくりというところにつながってくるんじゃないかなというふうに思いました。

この7つの項目をそれぞれ見ても、確かにそれぞれが空き家対策に絡んでくるところでもあると思いますし、これらのことは住んでいるところで暮らしていけるようにという、そういったところにもつながってくる。ある意味、まちづくりにつながってくるんじゃないかなと思います。

例えば、佐賀新聞のタイトルでも交通弱者対策も連携というふうなテーマ、テーマというかタイトルも上がってましたが、ここにも一番で高齢者及び障がい者等の交通弱者対策に関することということで中身が上がってます。

このことは、やはり市内、どの地域でもあって、武雄町内でもやはり同じように私もそういう声も伺ったりするところあります。

例えばなんですが、この交通弱者でいえば、いろんな方法があります。

その方法の中で、今、観光自転車がどんどん多く出てますが、例えばなんですけれども、

こういった電動アシスト自転車をうまく高齢者の方に活用するというのも場合によってはあるんじゃないかなというふうなところあると思います。

いろんな視点で取り組むことができるんじゃないかと思いますが、小松市長、改めてこの予防という点、また今後、全国空き家バンク推進機構との連携した展開を含めて、武雄市としてどのように考えを持たれているか、市長としての思い、考えというところの答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

空き家対策の話は、私たちも健康づくりと似ている気がしています。病気になったところを治療するだけではなくて、病気にならないように取り組むというのと同じように、今ある空き家をどうするのか、あとは空き家にならないように、空き家を予防するという観点、ここはあわせて大事だというふうに思っています。

昨年度から、空き家の予防ということであると、啓発、パンフレットをつくって啓発とか、あと、いわゆる終活セミナーの、家の終活セミナーのようなことをやったりというのは取り組んでいますけれども、今回、全国空き家バンク推進機構との協定で、それをさらにもう一歩進めて、さっき豊村議員もおっしゃいましたとおり、今住んでいるところでこれからはしっかりと住み続けられるというのがやはり空き家の予防につながってくると私は思っておりますので、そういう観点で、今一番にも上がっていますけれども、今いるところで、例えば高齢者の方とか交通弱者の方もしっかりと交通対策をとるとか、そういったことが私は必要だというふうに思っています。

今回、連携をするということで、さまざまな企業と一緒にやっていくという、これまでにない可能性が生まれてきます。

ぜひ民間企業のさまざまなアイデアを生かして、武雄市のいつまでもそこに住める地域、そしてひいては、それは空き家の予防につながると、ここを積極的に進めていきたいと考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

空き家対策であり、繰り返しになりますが、やはりまちづくりというところに私はつながるんじゃないかなと思います。これからの人口減少社会の中でどのように地域を持続していくか、やはり地域の支え合い、協働というところが必要になってくると思います。

この7つの項目ありますが、ほかにも絡んでくる場所もあると思います。これらがそれぞればらばらでなく、やはり連携しながら、横のつながりも持ちながらどうまちをつくって

いくつか、そういった視点でもぜひ取り組んでいただきたいと思います。

別府市の市長さんも記事では、かねてから空き家対策は積極的にプッシュ型で取り組んでいるつもりですが、より多くのネットワークをつないでもらい、全国のロールモデルになるようなものをしたい。より動きを加速できると思うというようなことも述べられたと新聞記事のほうに上がってます。

この連携協定の中で、武雄市がこれまで取り組んできた課題について協力することによって、より幅広く、よりよいものになっていくようにということを期待するところであります。

それでは、次の質問に行きます。

次は健診についてです。

武雄市において健診も、特定健診、がん検診、わっかもん健診とありますが、それぞれの概要と、また総合的な面で健診を行うということの狙いについて、答弁をよろしく願います。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

おはようございます。先ほど議員の質問の中であったように、武雄市の健診は、国保の特定健診、これは40歳から64歳を対象としております。

がん検診は胃がん検診、肺がん検診、あるいは大腸がん検診、子宮がん検診、乳がん検診等々を行っております。

また、20歳代と30歳代にはわっかもん健診というのをやっていますが、検査項目としては特定健診と同じような項目を実施しております。

これを総合的にやる目的としては、その健診結果をもとに生活習慣病の改善や、治療継続の支援をし、生活習慣病の重症化予防を図ることを目的としております。

特に糖尿病性の腎症のほう、重症化予防に力を入れております。糖尿病からの人工透析への移行を防ぐことで、医療費の抑制につなげていきたいというふうに考えております。

ただ、よく言われている人工透析の医療費につきましては、初年度は1,000万円、次年度以後は年間500万円以上かかるというふうに言われております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

今答弁いただきましたように、健診を受けること、その狙いとして、生活習慣病の重症化予防、また医療費の抑制というふうなところにつなげたいと。

人口減少の流れの中で、全国的にもそうではありますが、社会保障費の増加、医療費とか

介護費を含めて、ここの増加を抑えていくっていうことも大事なことで、それが財政運営にもかかわることでもありますし、先ほどの健診ということ、受診率ということにも関係してくると思います。

スライドは、特定健診の受診率についてです。すみません、ちょっと色があってちらちらして見にくいかもしれませんが、これ佐賀県内の各市町の受診率のデータです。

ほかの市町の名前はちょっとあえて出さないように色でちょっと分けてるところです。

例えば平成 24 年度、左から 24 年度、25 年度、一番右が 28 年度とありまして、24 年度の一番上の、何色といいますかね、この色の部分は 25 年度では 2 番目に来てる、26 年度は一番上に来てるというふうな形で見ていただいたらいいと思います。

この赤の部分は、県の平均、特定健診の受診率の平均です。これを見たときに、武雄市が黄色なんですけれども、武雄市は、年々著しく受診率が増加しているっていうのがグラフでわかります。

担当の方、関係者の方といろいろ私もお話ししましたが、やはり保健師さん等関係される皆さんのいろんな工夫であるとか、また、リピーターにつながるような取り組みであるとか、新規にここになられた方への勧誘であるとか、そういったことの努力というのが積み重なって実績として武雄市の受診率が向上しているというのは、素晴らしいことだなというふうに思います。

全体的に見ますと、やはり上位のところは、やはり上位に落ちているのかなっていうふうに思いますし、下のほうは、やはり何か下のほうに落ちているのかなと。

これ、市町なので町のほうが上だろうというふうなことはあると思いますが、確かに町のほうが上位のほうにあるんですけれども、関係なく市でも上位のほうにあったり、町でも下のほうにあったりっていうふうな、その辺のばらつきというのもあります。

先ほど言いましたように、担当の皆さんと話をしていますと、特定健診の受診、やはり受診率を上げていく取り組みというのがすごく大事なところで、ただやはり様子を見てみると男性よりも女性の受診率が高いようだ。逆で言えば、男性のほうが女性と比べて受診率が低いようだというような話がありました。

私も転倒予防教室をしたりとかするときあるんですけども、やはり女性の参加が多かったりとか、そういうふうなところがありますが、ここでもやはり同じような状況があるのかなと思いました。

男性、女性という部分でいえば、健康寿命であるとか、平均寿命でもそこでの違いもありますし、そういったこととの関連っていうのもちょっと気になるころではありますが、そこで質問であります、特定健診の受診率について、男女別の推移について答弁をお願いいたします。

また、あわせて医療費について、全体的な部分、また 1 人当たりの医療費であるとかにつ

いても、その年次推移や医療費にかかるまた男女別の特徴がありましたら、その点についても答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

スライドをお願いします。

（モニター使用）今モニターに出しますけど、特定健診の受診率は平成24年度から28年度まで出しておりますが、男女とも毎年伸びてはおります。平成24年度と平成28年度を比較してみますと、男性の伸び率は13.4%、女性につきましても14.4%というふうに右肩上がりで受診率は伸びております。

次に、これが医療費と被保険者の数、年次ごとに比較の表になっておりますが、まず、ここは武雄市全体じゃなくて武雄市の国保の方の医療費ということで、この数字は捉えていただきたいというふうに思っております。

まず、青色が国保の医療費のデータでございます。平成20年度が47億300万円から、平成29年度が50億4,500万円というふうに、平成25年度を境に右肩下がりで落ちるようになっていたはずなんですけど、平成27年度につきましても若干伸びております。医療費が。

これは、その年に肝炎の特効薬が出まして、1人当たり2,000万円ぐらいかかるような肝炎の新薬が出ましたんで、それが認可された関係で、この年は本来なら国保の被保険者数の右肩下がりで下がってるのに呼応して下がる予定でしたが、27年度については若干の伸びがあります。

次に、1人当たりの医療費につきましても、総医療費は減少傾向にあるんですけど、被保数が減っている関係で、どうしても1人当たりの医療費は平成20年度の33万円から、平成29年度45万円ということで、1人当たりの医療費は着実に伸びている状況でございます。

次に、これが男女別の医療費の状況でございます。生活習慣病に対する受診率、疾病の率は女性が高いんですけど、ここの表にあるように、脳梗塞、脳出血などは男性のほうが多く罹患しております。また、心筋梗塞、狭心症についても、生活習慣病の発症は少ないんですけど、そこに占める割合としては男性のほうが高くなっています。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。

男女別で健診の受診率、そして、疾患にかかわる部分での特徴を挙げてもらいました。

これがすべてでは、もちろん健診がこの疾患の要因のすべてではもちろんないんですけど、

健診の受診率は女性のほうが高い。けれども、結果として病気にかかわっている部分の割合としては、どっちかといえば男性のほうが高いというところは、こういう実際の状況がいろんな要因はあると思うんですが、実際の状況がありますので、ある意味男性、こういう状況が実際グラフであるから、なおさら健診行きましようよというふうな形で、こういったところからも言えるのかなというふうに思いますし、言っていくべきところかなというふうに思います。

改めて、これまでの受診率向上に向けた取り組みについて、及び今後の取り組みについて、啓発方法や受診率が向上してきた要因と考えられること、また、さらなる受診率向上を目指しての今後の取り組みについて答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

受診率の向上に向けての取り組みですけど、個人通知の工夫、あるいは先ほども議員がおっしゃいましたように、国保の新規加入者の方についての健診の御案内、あるいは保健師とか——ごめんなさい、——看護師とかの方で、チームダイエットというチームを組んで戸別訪問をして受診勧奨を行っております。あるいは市報やケーブルワン等を利用して受診勧奨を行っております。

それと、このスライドをちょっと見ていただきたいんですけど、健診受診者に対しまして結果説明会を行っております。その中で、特定保健指導に特に力を入れておるんですが、継続受診ということで、このオレンジ色のグラフを見ていただきたいと思っております。これが継続して受診をされている方の率でございます。それにつきましては、平成28年度につきましては、74%の方が継続してこの特定健診を受けていらっしゃるというふうなデータも出ております。

このために一層、健康課としても健診の推進を進めていきたいというふうに考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

リピーターがふえているということは本当にすばらしいことだと思います。

私も保健指導を市の保健師さんからこのところ受けております。ですから、職員さんを見るとぐっとおなかに力が入るような感じではあるんですが。

この健診について無関心層ってところがどうしてもあると思います。そして、受診されてない方、そういった方たちに対してどのように意識してもらうような啓発をできるか、そういった工夫も今後必要ではないかと思えます。

武雄市全体としての健康づくりの雰囲気を高めていくってということと、個人としてどのように働きかけることができるか、全体としての取り組みと個人への働きかけ、この両面が私は必要かなというふうに思います。

個人について、ああ、健診に行ってみようかなと思えるような、心をこうくすぐるような、そういうふうな個人へのインセンティブ、行動につながるような誘引、そのようにつながるような取り組みができれば、結果として全体の受診率向上、それが医療費の抑制とかにもつながってくるのかなと思います。

すみません、スライドを戻してもらっていいでしょうか。

スライドは特定健診、がん検診、受診率向上に役立つ好事例集というふうな、こういったのも上がってます。

この事例集を見ると、中には女性をターゲットに肌年齢テストを導入しているところもあるということで、なるほど、おもしろいなというふうに思いました。いろんなアイデア、さっき言いましたように、無関心層をどう引っ張ってくるかと、いろんなアイデアもとれるのかなと思います。

そこで、先ほど言いました、男性のほうがどちらかといえば低い部分がありますので、男性をどう健診に持ってくるかということも、何か一つアイデアができないかなと私もいろいろ考えてはいるんですが、なかなかいいのが思い浮かばないところもあります。

そこで、全体としてもなんですが、個人に対してどういうふうに通診につながるようなきっかけづくり、何か目の前のインセンティブとしての取り組みができないかと思いますが、男性の受診率を上げることに特化した形という点でもできないかと思います。

先ほどの男女での違いを示すことも有効な手段の一つとは思いますが、この点について答弁をよろしく願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

岩瀬福祉部長

**○岩瀬福祉部長〔登壇〕**

特に男性への受診の働きかけということで、行政としても、これだという特効薬は正直なところ持ち合わせておりません。

ただ、先ほど言われたように、女性は肌年齢、男性については筋肉量の測定等も検討が必要かなというふうに思っております。

それと、健康ポイントっていうのがございます。その中で健診ポイントっていうのもありますので、そういうのもっとお知らせしていきたいというふうに思っております。

ただ、個人的な部分はそうなんですけど、今度、行政単位の受診率ということで各区長さんのところに、区長会のときに町ごとの受診率を出して、町ごとのデータで競争してもらって、そういう男性特有の競争心をあおり立てるじゃないですけど、そういう形で健診の受診率を

上げていきたいなというふうにも思っております。

ということで、今後ともいろいろ試しながら一人でも多くの方々に健診を受けていただき、早期に発見できるような取り組みをしていきたいというふうを考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

いろんな工夫をしながら、ある意味、健診に行かれていない方の声も聞いたりしながら取り組んでいければというふうに思います。

時間が進みますので、次の項目に行きます。

次は、防災としての情報発信についてです。

防災という点では自助、共助、公助が言われています。

台風などの自然災害のリスクが高まる場合、早目、早目に情報を得ることも大事なことであり、その情報を伝えるために武雄市としても防災行政無線を軸とした、サイレンを鳴らしたり、放送が行われているところです。ほかにも補完的手段での情報発信に取り組まれています。

そこで、防災としての情報発信の手段について、また、現状の課題について答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

水町総務部長

**○水町総務部長〔登壇〕**

モニターをお願いいたします。

（モニター使用）モニターをごらんいただきたいと思いますが、これは市報8月号の抜粋でございます。防災行政無線の補完的手段ということで、このような情報収集の手段があるということで御紹介ですが、まず、佐賀県が発信する防災専用メールのあんあんメール、それから、市のホームページやフェイスブックで災害情報等を発信しております。

また、気象庁による気象情報ですとか、佐賀県の水防情報などもインターネットで発信をされているところでございます。

皆様に最もお知らせしたいところは、防災行政無線の補完的手段、モニターの右上の部分でございますが、電話で防災無線を聞くという項目でございます。

防災無線が聞こえなかった場合、また、聞き取りにくかった場合には、電話1本で確認をしていただくことが可能でございます。防災行政無線放送そのものが自動的に再生をされますので、ぜひ御利用いただきたいと思います。この無料電話による音声案内サービスは、電話番号が0800-200-4004でございます。

また、ケーブルワンやテレビ九州のスマートフォン用の地域情報アプリもございますので、

これについても補完的ツールとしてぜひ御利用いただきたいと思います。

それから、防災行政無線の現状でございますけれども、市内 167 カ所に防災行政無線のスピーカーを設置しておりますけれども、すべてのエリアにおいて等しい音量や音質で放送をお届けすることが非常に難しい状況でございます。また、雨や風などの天候によりまして聞こえにくい状況が発生いたしております。

市民の皆さんからのお声や御指摘によりまして、できる限りの調整作業はしておりますけれども、やはり調整にも限界がございますので、先ほど申し上げました電話サービスなどの補完的手段に頼らざるを得ないといった状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2 番豊村議員

○2 番（豊村貴司君）〔登壇〕

防災行政無線、言われましたように、聞こえの問題ですね、聞こえなかったりっていうがあるので、言われますようにサイレンを工夫されたりとか、電話で内容を確認できたりと、そういうのがあると。私も電話をかけて確認したりということもありますが、もう一つ言われました、スマートフォンでのアプリを使うということですね。

スライドをいいでしょうか。

先ほどもありました、ケーブルワンの地域情報アプリというのを私も入れております。

電話は、例えばサイレンが鳴って何か放送が流れよるけど何かようわからん、ちょっと電話して聞こうかなというふうな形でできるんですが、サイレン自体が鳴ったのが気づかなかつたら電話をするという行動にもいかないと思います。

ただ、このアプリの場合は防災行政無線が流れると自然と、このアプリを入れていると新しく情報が入りましたよというふうな形で防災行政無線のボタンがあって、そこに入ると、ここを再生すれば同じ音声聞こえるというふうな形になっています。

これは気づかなくても、携帯アプリのほうが知らせてくれるということで、これは私はすごく有効な手段の一つじゃないかなというふうに思っているところです。

実際私もこの防災行政無線、何とか聞こえの問題できないかなと思いつつ今いろいろ調べて、例えばポケベルと同じ周波数の 280 メガヘルツの防災の分、その辺もいろいろ調べたりして担当課の人とも意見交換したこともあるんですが、どうしても機械の更新をかえないといけないということで、相当コストがかかるということでちょっとそれは無理かなというふうに思いました。

実際、アプリというとスマートフォンなどの端末を持つてのことというふうになります。ただその場合に、年配の方はなかなかそこが、所持がというふうなところもありますが、これは総務省が出しているスマートフォンの保有率の推移です。

2011 年から一番右端が 2016 年で、折れ線が各年代、上が 20 代、次 30 代、40 代というふ

うな形で保有率の推移が出されてあります。やはり若い世代が多くあるんですが、60代でも現在は2016年時点で33.4%、3人に1人はスマートフォンを持っているというふうなところですよ。

全体として、2011年に14.6%であった保有率が、2016年には56.8%と5年間で4倍に保有率が上昇しているというふうなデータが上がってます。こういう状況ですので、5年後、10年後というのは、まだまだ保有率も上がっていると思います。

もちろんアプリがすべてではないんですが、有効な手段の一つとして捉えることはできるんじゃないかなというふうに思います。

そういった点で、武雄市としても、こういったのがありますよというのを知らせたりとか、また、ケーブルワンさんと協議をして、より使いやすいような形での改良の協議とか、そういったことに取り組んでもいいんじゃないかなというふうに思いますが、この点について答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

水町総務部長

**○水町総務部長〔登壇〕**

議員から御紹介ありましたとおり、ケーブルワンのスマートフォン用の地域情報アプリは、防災行政無線を補完する非常に有効な手段であろうと考えております。

武雄市から情報発信があったことが新着情報といった形でわかりますし、防災行政無線の内容を、文字と音声で何回も再生し確認するといったことが可能でございます。

武雄市が県のあんあんメールを使って発信する防災情報もメニューに組み込まれておりますし、指定避難所の情報、それから、市内の公民館情報等も見ることができますので、ぜひこれは広く活用していただきたいと考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

先日、九州大学の大学院生が武雄市についての研究をされて、その報告がありました。その中で、武雄市も在住される外国人の方もふえている、多文化共生という部分でどうあるかっていうふうなところがあつたと思います。

それに関連して言えば、やはり多言語でどう対応できるかというところがあると思います。災害発生時に外国語の方にどう情報を知らせるか、こういったアプリも、やっぱりそういった多言語対応という部分で使えるんじゃないかなというふうに思います。

小松市長、この点について答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

私も先日、九州大学の方の発表を聞きに行きました。

まさに在住外国人の方が非常に、数はまだ少ないんですけども率としては伸びているところありますし、あとはやっぱりインバウンドで来られる観光客の方、いざ地震が起きたときにどうすればいいか。この前、北海道でも札幌で、ちょっと路頭に迷われているような外国人の映像をテレビで見ました。

非常にこういった多文化共生、外国人の方への対応というのは、これからますます求められていくと思います。

外国語をふやすだけではなくて、わかりやすい日本語を使うと、この2つの面でぜひこういったアプリをさらに幅を広げていけないかどうか、ぜひいろいろ専門家の方の話も聞いて調査をしていきたいと考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

スマートフォンの保有率がふえてきているという中で、こういったアプリの活用というのは考えるべきところだと思います。

ぜひ、ケーブルワンさんの地域情報アプリは既にあるものですので、うまくそれも生かしつつという部分で、先ほど答弁いただいたように協議をして、より使いやすい形にさせていただけたらと思います。

それでは最後の質問です。

I Tの活用についてです。

前回の議会、6月議会でも一般質問の中でI Tの活用について尋ねました。

新庁舎となって、ワンストップサービスに置けるI Tの活用やR P A、また、チャットボットなども話の中で述べて、市としてI Tの活用ということについてどのような方針を持つかということも伺いました。

その際の答弁としては、市民サービスの向上、業務の効率化、ここを常に掲げて、この意識をもってI Tをどう使うかというところをふだんの業務から認識をして、そして必要なものは改善していくと、そういう姿勢でぜひ取り組んでまいりたい。また、専門家等の意見も聞いて、そして費用対効果もちゃんと考えて、いろいろな取り組み、使えるものについてはしっかり取り組んでいきたいとありました。

確かに、いろいろ検証をしながら進めていくというふうな形はあると思います。

実際、6月議会後、このI Tの活用についてどのように検討され、どのように動いているか答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

先ほど議員がおっしゃられました前回の議会におきまして、市長より市民サービスの向上、そして、業務の効率化という部分を重点に考えながら進めていくと、考えていくということで答弁をしたと思います。

現在、システムの導入等につきましては、検証を行うため既に庁内での検討を開始しているところでございます。

具体的には、市民の皆様からの問い合わせ対応等を行う部署等におきまして、IT等の活用により改善が図られるかどうかというような業務の洗い出し等を現在行っているところでございます。

この中から特に効率が高いと思われるような業務につきましては、今後、検証を行っていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番豊村議員

○2番（豊村貴司君）〔登壇〕

先ほど言われましたように、問い合わせに対する対応、実際に今、実証実験として取り組まれているところもあります。そこにかかる職員さんの負担が軽減されたというデータも上がっています。庁内で検討を進められているということです。

やはりどういうふうに使えるかというところが、今、目の前にないだけになかなかその辺の効果が、職員さんも見えづらい部分もあってなかなかこう——検討の難しさというところもあるかもしれませんが、言われましたように、どういうふうに活用できるかという視点でぜひ取り組んでいただきたいと思っております。

先ほど防災のほうでも述べましたが、全国各自治体を見るといろんな形のアプリというのが出されています。

観光についてのアプリであるとか、大分県も健康アプリということで2万人ぐらい登録されているというのもあります。

防災についてのアプリも多いですし、子育てに関する情報発信のアプリや、ちばレポのように市民協働のアプリ、また前回6月議会で言いましたごみ分別、福岡市のごみ分別のアプリですとか、ラインを使っただけのチャットの問い合わせ、これも会津若松市で始まっています。その会津若松市では、ラインでのチャットボットを使って、休日、夜間診療の病院探しやゴミの出し方、除雪車の運行状況、各種証明書発行手続の方法など、その問い合わせサービスを始めたというところがあります。

繰り返しになりますが、スマートフォンの保有率が高まっている中、私はこのアプリの活用、この視点を持つということは業務の効率化というところに取り組んでいく中で、

やはり視点としてあるべきところかなというふうに思います。

もちろんすべてではないんですが、ここを意識するということはあっていいと思いますが、この点について答弁をお願いします。

**○議長（杉原豊喜君）**

古賀企画部長

**○古賀企画部長〔登壇〕**

先ほど、議員からもおっしゃられておりましたスマートフォンの普及率でございますが、個人所有率が既にもう 60%近くなっていると。世帯による普及率は、既にもう 70%を超えている状況であると思います。

その中で、先ほどまで申し上げておりましたような市民サービスの向上、また、業務の効率化に資するアプリの導入につきましては、十分検討する必要があるというふうに考えております。

また、このアプリの開発につきましては、年代別の普及率等を見ながら、利用者のニーズに応じた形で、導入効果が大きいものからこのアプリの目的を設定する必要があるのではないかとこのように考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2 番豊村議員

**○2 番（豊村貴司君）〔登壇〕**

言われましたように、ニーズ等も見ながらというところで、確かに開発の部分、職員さんでできればいいかもしれないですけどなかなか難しい点もあります。そういった場合に、冒頭言いました公民連携という部分でうまく民間とも連携しながら、市民サービスの向上につながる部分も大きくあると思います。

ぜひそのアプリの活用という視点は、今後あるべきところだと思いますのでよろしくお願いします。

最後になりますが、ほかの自治体でも、先ほど言いましたように I T を活用した取り組みが出てます。I T の活用による業務の効率化が図れること、また、場合によって市民サービスの向上につながることも可能になってくると思います。

この I T の活用という流れは、間違いなく行政においても展開していくと思います。武雄市においても、やはりその動きというところを意識を持って取り組むべきところかなと思います。

そこで改めて、現状における I T 活用についての武雄市としての今後の方針を伺いたいんですが、市長、市長が言われています西九州のハブ都市ですね、私も同じ思いを持っています。その中で市長も、人、物、金が集まるっていうふうなところで、こういった言葉も上がっています。

私は、もちろんこういった流れの中で、I Tの活用というところで一つ情報の拠点を目指すと、武雄市が西九州における情報の拠点、武雄に行けば情報がある、また、武雄市から情報を発信できる。これは武雄市だけじゃなくて、周辺自治体含めてうまく連携をとりながら情報の集まる場所、情報の拠点というところも一つ目指すというのものもあるんじゃないかなと思います。

そのためには観光の分野が特にあるかもしれませんが、やはり市内におけるI Tの活用というところが進んでいくというところもあわせて必要なのかなというふうに思います。

市長として、このI Tの活用ということについて、どのように今後、方針を考えられるか最後に答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

小松市長

**○小松市長〔登壇〕**

今の時代、I Tの活用というのは、まさに当たり前になってきていると思います。

先ほど市内のI T活用というお話をされましたけれども、市内であればI TでできるところはI Tに任せて、そして、職員にしかできないことを職員がやるというのが基本である。それによって、市民サービスの向上、まあ市民サービスの向上がやっぱり大事ではあるんですけども、そういうふうな基本的な考え方を持っております。

先ほど、6月以降こういった形で進捗をしていますと部長は答弁をされましたけれども、そういった基本的な考え方をしっかり持って、そして、着実に進めていくと。費用対効果を見ながら、そして、専門家の方の御意見も聞きながら、ここについては、I Tの活用これは標準として進めてまいりたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

2番豊村議員

**○2番（豊村貴司君）〔登壇〕**

時間ですので、これで一般質問を終わります。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で2番豊村議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 11時33分

